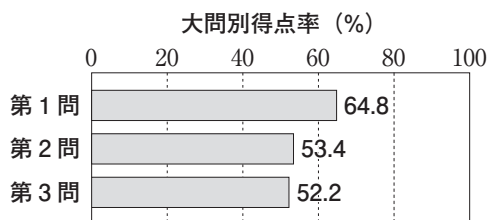
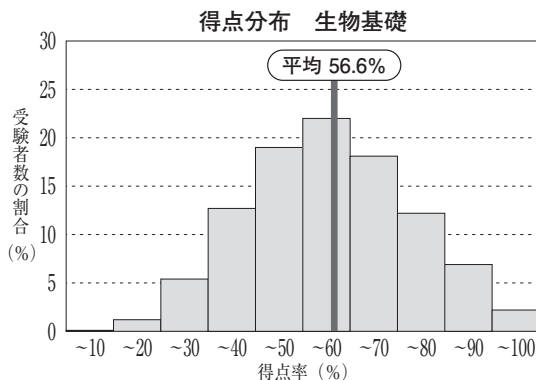


生物基礎

教科書の知識を適切に使って、問題を解けるようになろう。

I. 全体講評

今回の第2回4月センター試験本番レベル模試の平均点は28.3点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター本試験に準じた形をとり、第1問は生物と遺伝子、第2問は生物の体内環境の維持、第3問は生物の多様性と生態系とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。今回の模試で平均得点率に届かなかった大問、また他と比べて正答率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。



II. 大問別分析

第1問の得点率は64.8%、第2問の得点率は53.4%、第3問の得点率は52.2%であった。

第1問 生物と遺伝子

光合成および遺伝情報の転写と翻訳について確実に理解しておこう。

Aは光合成およびATPに関する基本的な知識問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ54.1%、44.4%、82.1%であった。光合成の反応に関しては良くできていた。Bは遺伝情報の転写と翻訳に関する出題で、問4～問6の正答率はそれぞれ76.9%、63.7%、68.3%であった。

第2問 生物の体内環境の維持

肝臓および内分泌系に関する知識を整理しておこう。

Aは、心臓の自動性と自律神経による拍動調節に関する知識問題で、問1～問3の正答率は、それぞれ27.4%、41.5%、90.2%であった。Bは酸素解離曲線に関する問題で、問題文とグラフから必要な数値情報を得て計算する問題も出題した。問4～問6の正答率はそれぞれ54.6%、48.6%、50.3%であった。ヘモグロビンの性質と併せてよく復習しておこう。

第3問 生物の多様性と生態系

世界と日本のバイオームに関する知識を整理しよう。また、光-光合成曲線について理解を深めておこう。

Aはバイオームに関する知識問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ49.9%、47.1%、27.2%であった。問題で扱ったグラフおよび日本のバイオームの水平分布と垂直分布の図に関しては、具体的な植物名も含め、知識に漏れがあってはならない。Bは光-光合成曲線に関する問題で、問4・問5の正答率はそれぞれ59.3%、71.0%であった。植生の遷移との関連も含め復習しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識をしっかりと身につけることを目指そう。

今年度のセンター試験の生物基礎は、大問が3題の構成で出題された。センター試験では、教科書的全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。まだ知識が不十分だと感じる人は、教科書の用語やグラフなど基本的な内容をしっかりと理解し、まずは正確な知識を身につけることを目標に学習を進めてほしい。ただ暗記するのではなく、納得するまで教科書を読みこみ、仕組みを理解しながら勉強することが大切だ。問題を解くにあたって、覚えた知識を正確に使うことが必要となる。これまで受験した模試やセンター過去問を使って、しっかり復習しておこう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさんの問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。ぜひ、模試や過去問を積極的に活用してほしい。